

飲酒と発がんについて

消化器内科

岡本 博司 さん
国吉病院 消化器内科部長



よく分かっています。女性では乳がんのリスクを高めます。アルコールは飲み過ぎに注意することが大切です。

飲酒は食道がんや咽頭がんのリスクを高めます。アルコールの代謝酵素の活性が弱く、もともとあまり酒に強くない方が訓練して飲めるようになったような場合が特に危険で、あまり飲めなかった方が、飲酒と喫煙を続けると食道がんのリスクが300倍になります。また、最近の研究では大腸がんのリスクも高めることが分かっています。飲酒をしない人に比べて日本酒換算1日1〜2合未満の飲酒で約1.4倍、2〜4合未満で約2倍、4合以上で約3倍にリスクが高まります。日本人男性の大腸がんの4分の1は飲酒が原因となっていると推定され、特に日本人は飲酒で大腸がんが発生しやすい素因があるかもしれません。大腸がんのリスクは、アルコールに強いかどうか、お酒の種類などに関係なく、発がんの機序はよく分かっています。女性では乳がんのリスクを高めます。アルコールは飲み過ぎに注意することが大切です。